

3 関連事業

3-1 林木育種事業（特定林木育種事業・林木育種維持管理事業）

1 次代検定林調査

越地 正・高橋成二

委託実施

(1) 定期調査：5年または10年ごとに成長調査（樹高・胸高直径）、材質調査（根曲がり・幹曲がり）、被害状況調査（病虫害、気象害等）を調査するとともに、既検定林の維持管理を実施した。

① 寸沢嵐検定林（関・神・8号）

調査地：相模原市相模湖町、相模湖町県行造林1林班

調査林分：スギ林25年生（クローン増殖） 0.69ha

植栽形式：ランダム植栽（混植）

② 長竹検定林（関・神・13号）

調査地：相模原市津久井町、津久井町県行造林1林班

調査林分：スギ林17年生（クローン増殖） 0.5ha

植栽形式：ランダム植栽（混植）

③ クラミ実証林（実証林8号）

調査地：南足柄市福泉、かながわ森林づくり公社所有林

調査林分：スギ・ヒノキ林15年生（クローン増殖） 1.0ha

植栽形式：列状植栽

(2) 維持管理

① 関神8号（寸沢嵐）：系統管理作業として系統管理バンドの取り付け

② 実証林8号（クラミ）：系統管理作業として系統管理バンドの取り付け

2 種子生産

越地 正・毛利敏夫・河野明子

県立21世紀の森地内、スギ・ヒノキ採種園において、林業用種子生産事業委託を行なった。スギ種子は、七沢採種園では平成10年度より、県立21世紀の森の採種園では平成14年度より全量を花粉の少ないスギとして採取している。ヒノキ種子は平成16年度より花粉の少ない6系統品種と一般の精英樹種子とを分けて採取した。平成18年度は不作年であった。

(1) 林業用種子生産事業委託

調査場所：21世紀の森採種園（スギ、ヒノキ）、

委託先：神奈川県山林種苗協同組合

実施内容：① カメムシ対策：処理本数：242本、袋設置数：850枚

② 着花促進（ジベレリン処理）

スギ：0.5ha（Bブロック）、ヒノキ：0.5ha（4ブロック）

③ 種子生産（球果採取、種子乾燥、種子精選）

スギ：0.5ha（Aブロック）、ヒノキ：0.5ha（2ブロック）

(2) 花粉の少ないスギ採種園（七沢）での種子生産（0.2ha）

選抜した花粉の少ないスギだけで構成された花粉の少ないスギ採種園において、ジベレリンによる着花促進処理を行うとともに球果採取、種子乾燥、精選を行った。

(3) 種子生産量及び発芽率

21世紀の森採種園において、花粉の少ないスギ種子は2.0kg、ヒノキ種子は、花粉の少ないヒノキ種子7.2kg、一般ヒノキ育種種子3.5kgを採取した。その発芽率は、花粉の少ないスギ種子15%、花粉の少ないヒノキ種子2.3%、一般ヒノキ種子25%であった。花粉の少ないヒノキ種子の発芽率が著しく低かったのは、カメムシ対策用の袋がネズミに破られ、球果の食害を受けたためと考えられた。

七沢の花粉の少ないスギ採種園では花粉の少ないスギ種子2.7kgを採取した。その発芽率は5.5%と低かった。21世紀の森採種園スギ種子の発芽率に比較しても約30%の低い値となった。この原因としてはスギカミキリの被害連年発生しており、これによる衰弱が考えられた。

平成16年度から花粉の少ないヒノキ6系統別の採種を初めた。今年度は7.2kgと前年と同程度の花粉の少ないヒノキ種子を採取することができたが、発芽率が著しく低かったので有効種子量としてはかなり少なかった。

(4) 種子配布および種子貯蔵

生産した種子は造林種苗生産用種子として環境農政部森林課に報告し、神奈川県山林種苗協同組合へ種子配布した。配布した残りの種子およびそれ以前に生産した種子については冷蔵（-5℃）および冷凍（-30℃）貯蔵により管理している。

3 苗木養成

越地 正・毛利敏夫・河野明子

(1) さし木・つぎ木・播種および管理（水源林広葉樹苗木育成事業分を含む）

方式	樹種及び数量
接ぎ木	モミ：24本、クロマツ：20本、アカマツ：113本
播種	スギ：30g、ヒノキ：30g、クロマツ：4g、モミ：20g、ブナ：0.6g

床替えおよび管理

繁殖別	スギ	ヒノキ	マツ	その他広葉樹
さし木等苗	382本	165本	6本	—
実生苗	52本	52本	110本	48本*

* イヌブナ、アセビ

(2) 苗木の山出し

21世紀の森採種園の補植として、クロマツ10本、アカマツ30本を植栽した。

(3) 林木の遺伝資源保存

天然記念物等遺伝資源保存として引き続き山神の樹叢（ホルトノキ、国天）の現地の実生の育苗及び調査、有馬ハルニレ（県天）、康岳寺タイサンボク（市天）の保育管理を実施した。

4 林木育種維持管理事業

越地 正・毛利敏夫・河野明子

七沢および田原のスギの採種穂園、ヒノキ採種園、および精英樹クローン集植所1.96ha、苗畑等0.8haの下草刈、薬剤散布等の維持管理作業を行った。田原苗畑において、大雄山スギ採種園の伐採、下刈り作業を実施した。

また、冬季に21世紀の森地内ヒノキ採種園の採種木約600本の断幹を実施した。

3-2 水源林広葉樹苗木育成事業

谷脇 徹・毛利敏夫・河野明子

1 種子の生産

県内産種苗の自給のため、丹沢山堂平において神奈川県山林種苗協同組合と種子の採取を行った。平成18年はブナの小豊作の年であった。採取種子量はブナ等10.7kgであった。ブナ種子については液体窒素等による長期保存を実施している。

2 広葉樹採種園の造成

「21世紀の森」に植栽適期となった広葉樹母樹クローンを植栽した。内訳は以下の通りである。

ケヤキ：15系統61本

シオジ：4系統30本

キハダ：5系統20本

合計3樹種24系統111本